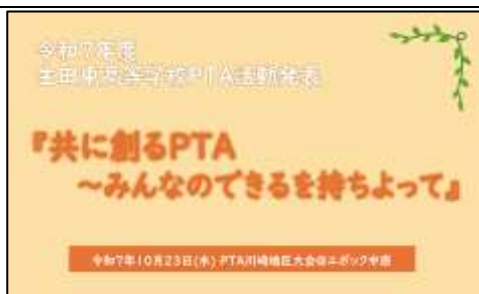


「研究発表Ⅰ」

講演者 P T A会長：村上友子、副会長：阿部絹枝・橋本育子、書記：関山淳子・飯田洋子、会計：唐沢明子・矢澤里美、学年文化部門長：部原江美子、環境交通安全部門 書記：神尾宏美、広報部門長：勝俣三恵子

学校名 神奈川県立生田東高等学校

研究テーマ 「共に創るP T A～みんなのできるをもちよって～」



1 はじめに

①学校概要

生田東高等学校、通称「イクヒ」は、昭和52年に開校し、来年度には創立50周年を迎えます。

「イクヒ」ではICT教育に力を入れており、令和6年度には文部科学省の「DXハイスクール」に採択されました。生徒全員がiPadを携帯し、授業の多くはデジタル教材を活用して進められています。

校舎は生田の丘の上にあり、自然豊かな高台に位置しています。生田駅から学校まで続く急勾配の坂道は、通称「イクヒ坂」と呼ばれ、生徒たちは毎朝この坂を登って元気に登校しています。

②学校行事紹介

《東陵祭》

6月 体育部門



9月 文化部門



2 P T A活動内容について

令和7年度のP T Aは、本部役員7名、学年文化部門12名、環境交通安全部門10名、広報部門6名、合計35名で構成されています。

① P T A全体としての活動

月1回の運営委員会開催のほか、体育祭委や文化祭など、学校行事のお手伝いを中心です。活動の様子を少しご紹介します。

文化祭1日目の朝は、毎年、校長先生をはじめ担当の先生方を交えて決起会が行われます。今年の文化祭では、中谷教頭にイクヒキーホルダーを作成していただき、生徒やP T A役員の間でも大変好評でした。



先生方にご協力いただきながら、役員同士で連携し合い、短時間で密度濃く活動しています。

② P T A本部

本部では、主にP T A本部活動計画や予算案の立案、全体の運営サポート、学校行事や教育活動支援、P T A総会・運営委員会の開催、高P連大会への参加などを担当しています。特に今年心掛けたのは、他校のP T A組織との交流です。埼玉で行われた関東地区大会、三重で開催された全国大会に、それぞれ本部役員希望者が参加。外部組織との関わりから得られた学びは、生田東高校のP T A活動に大いに役立っています。

また、文化祭ではおにぎりやパン・やきそばを販売して、生徒たちのおなかを満たすお手伝いをしました。

本部は7人という少ない人数で効率的に活動をすすめることを目指し、意見を出しやすい風通しの良い運営を心がけています。

③→学年文化部門

学年・文化部門の活動は球技大会の子供達へドリンクの配布。文化祭でのクジつきドリンク販売といった学校行事のサポートのほか、保護者交流会の開催を担当しています。昨年はレストランでのアフタヌーンティーパーティーを実施し、大好評でした。



学年部門は人数も多いので、「**できる時に、できる人がやる！**」をモットーに活動しております。お互いに助け合いながら楽しく活動しています。

④→環境・交通安全部門

環境・交通安全部門の活動は大きく環境と交通安全の2つに分かれています。

環境活動は、園芸家の先生をお招きして、年3回、校門横とプランターの花の植替えを行い、花の説明や植替えのコツを教えてもらっています。

交通安全活動としては、2年ほど前から整備不良による事故を防ぐ目的で自転車点検を始めました。子ども達の事を親身に考えてくださる自転車店さんと共に、好評につき今年度は年2回実施しています。

また、文化祭では交通安全クイズと、多摩警察署のご協力のもと交通安全教育車「ゆとり号」にて交通安全体験を実施しています。

さらに、卒業生へのコサージュをプレゼントも担当しています。

活動を通じて子どもたちの安全と快適な学校環境を支えることはもちろん、保護者間の情報交換の場として活動が役に立っています。



⑤→広報部門

広報部門は、行事毎に撮影や取材をし、年に4回の広報誌発行が主な活動です。

広報部門の魅力はなんと言っても、撮影を通じて子どもの学校生活を直に感じられる事。保護者が参加出来ない行事にも参加出来るので、子どもとの会話の話題も増えます。

広報誌の取材や構成、校正作業には、Googleフォームやドライブを活用しています。撮影以外はオンラインで作業を進められる仕組みを整え、まさに、役員それぞれが時間のある時に「できる」を持ち寄り、広報紙の作成に取り組んでいます。「どこでも・誰でも参加できる」新しい形のPTA活動を実現しています。



3 アンケートからひも解く「イクヒPTA」

私たちは、まず自分たちが楽しむことを忘れずに、各々ができることを持ち寄りながら日々活動しています。

現在、PTA役員がどんな想いで活動に参加しているのか、いくつかのアンケートを実施しました。日々の活動のなかで感じたことやアンケートに寄せられた声を元に、今回の発表をまとめました。

◆参加のきっかけ

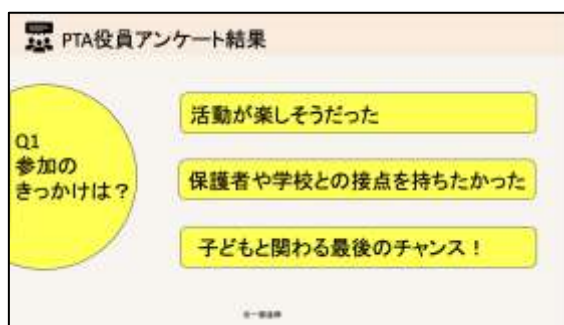
アンケートより今年度からPTA活動に参加されている1年生保護者のコメントを紹介します。

「入学時のPTAアンケートをきっかけに、人手不足の力になればと役員に参加しました。活動を通して学校を知り、娘との会話や絆を深めながら、今後もPTA活動に励みたいと思います。」

****PTA活動に参加したきっかけ****としてもっとも多かったアンケート回答は、「人とのつながりを持ちたい」、「子どもの学校を知りたい」という声でした。

その他、高校のPTAならではの特に印象的だった回答が「子どもの学校生活に関われるのもこれで最後だと思ったから」というものです。

「入学者説明会の時にPTA役員に、『子どもの学校生活に関われる**最後のチャンス**です』と言われ、**確かに！**と思ったから」という意見もありました。これは、高校でPTA活動への参加を迷う保護者の背中を押すひとつのキーワードになるかもしれないと感じました。



◆生田東高校PTAで活動した印象

実際に役員として活動に参加してみた印象を聞いてみたところ、「楽しく参加できた」「他の保護者や先生がたと情報交換ができて良かった」「学校の様子を詳しく知ることができた」など、ポジティブな感想が多く寄せられました。

また、「役員同士が助け合う温かい雰囲気」や「自分のペースで無理なく参加できる環境」を評価する回答も多く見受けられました。

少し褒めすぎかもしれませんが、今年度の生田東高校PTAが掲げる「共に創るPTA」という想いを一人ひとりが大切に活動してきた成果だと感じています。



◆アンケート結果を受けて

仕事・介護・育児など、みなさんそれぞれが異なる背景を抱えながら役員を務めています。

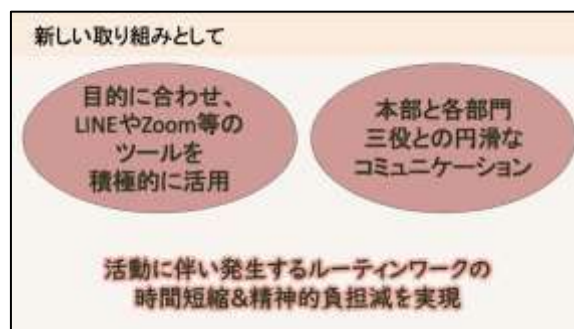
生田東高校PTAでは、役員それぞれが抱える事情をお互いに尊重し、できないときにはお任せし、その代わりにできる事があれば能動的に手を上げるという良い空気感があります。

花壇の植え替えや学校行事、地域貢献の郊外清掃などでも、部門を超えて協力し合う姿勢が特徴であり、生田東高校PTAの自慢です。

こういった流れは、アンケート結果にもあった通り、誰もが参加しやすいオープンで楽しい雰囲気作りを大切に活動してきたことの結果だと自負しています。

4 最後に

生田東高校PTAではZ o o m会議やL I N Eを積極的に活用しています。本部と各部門の三役がつながるグループL I N Eでは、出欠確認や情報共有、アイデア出しや決定事項の周知などを行うことで、運営が効率化しています。また、ノート機能や、「調整さん」などを活用し連絡や日常調整の手間を削減しています。こうした工夫により、時間的・精神的負担を減らし、誰もが参加しやすいPTA活動を実現しています。



今後も『共に創るPTA～みんなのできるをもちよって』を合言葉に、学校との連携を深めながら活動を続けてまいります。

温かくご理解・ご協力くださる先生方に、心より感謝申し上げます。